

## 第19回宮崎県新型コロナウイルス感染症対策協議会 議事概要

日時：令和4年4月21日（木）19：00～20：30

場所：防災庁舎4階 43・44号室

（委員）

疫学調査の重点化については、以前のように、より広く調査を行う方が良いのではないかと。ハイリスク者等に重点化して実施する理由は、感染拡大により対応が困難になってきたためか。もしくは、効率化を図るためか。

（事務局）

「第7波」により感染者数が過去最多となる中、感染・伝染性が高く、潜伏期間、発症間隔が短い、一般的に重症化しにくいが高齢者は若年者に比べ重症化する可能性が高いといったオミクロン株の特徴を踏まえた国の通知に従い、保健所機能を維持しながら、ハイリスク施設・ハイリスク者に重点的に対応していくための運用である。

（委員）

濃厚接触者となった医療従事者については、毎日の自己検査による陰性確認等を条件に勤務可能となっているが、検査費用が医療機関の負担となっているため、何らかの支援があればありがたい。

（委員）

濃厚接触者と接触した方が不安になり、検査を受けることがあるが、ウイルスの潜伏期間の関係で、結果が陰性となる場合もある。陰性の結果をもって安心し、感染機会の可能性を広げてしまう場合もある。検査に対する正しい情報を県民に周知していただきたい。

（委員）

事業所、学校において、どの程度感染が広がっているのかということについて、今後、情報共有をお願いしたい。

（会長）

社会経済活動の回復に向け、飲食店の感染対策について、「ひなた飲食店」として認証に至っていない店舗に対する対策が必要なのではないか。

(事務局)

認証店に対しては、研修会を開催するなど、感染対策に係る情報提供等を行っている。認証店以外の店舗に対しても、可能な限り個別で訪問し、感染対策に係る指導や、認証取得のお願いを行っているところである。

(委員)

「資料2」に死亡者に関するデータがないが、他県においては、感染者数と死亡者数の関係性等をデータで示している。対応方針上の指標にも死亡者に関する視点を入れなくて良いのか。

(事務局)

警報等の発令に当たっては、医療のひっ迫状況を重視することをより明確化するため、国の対処方針や他県の動向も踏まえて、病症使用率を指標としたところである。このため、今回の資料については病床に関連する各データを記載したところである。

(会長)

オミクロン株に置き換わり、基礎疾患等の悪化に伴う体力低下により、重症化するケースが多くなっているのではないかと考える。基礎疾患等の悪化に対し、より早く対応する必要があるのではないかと考える。

(委員)

高齢者において、3回目接種が遅れ、感染し、重症化する場合もあったのではないかと考える。感染が多くなっている若い世代についても、ワクチン接種を促進していく必要がある。若い世代に対するワクチン接種の啓発については、これまでは、本人のための感染予防というよりも、周囲の大事な高齢者等を守るために接種を促すといった、消極的な呼びかけに感じてしまうことがあった。今後は、さらに積極的な内容で接種を呼びかけていく必要があるのではないかと考える。

(知事)

ご指摘のとおり、20代以下の若い世代を中心に、今後もワクチン接種を促進していく必要がある。夜間接種の日程を追加するなど、接種率の向上を図ってまいりたい。基礎疾患等の悪化による重症化を防ぐためにも、「資料3」の8ページのとおり、高齢者施設等への往診体制を強化し、必要な医療を届ける仕組みを構築していきたい。